

第 131 号

発行日
2024. 3.18

Super Highway

春闘速報 18

J R 東労組バス関東本部

申 3 号 第 2 回団体交渉 要旨②

組合) 基準賃金が上がっていくのが一番の仲間を引き留めることになる。

会社) トータルではないといつつも賃金が一番であろうというのは認識している。とはいえ、どう回答にするか、言葉はうまく見つからないがきちんと皆さんがよかったと思っていただける回答にならないとそこは会社として誠意をもって回答しなければならないのかなと思う。

組合) 生活実感として、物価高である期待も高まっていますけど現実を知らなきゃいけないということで、修繕費も物価高の影響を受けているか

会社) 上がっていますね。稼働率が違うので物価高が直接の影響とは言い切れないが、部品としては 10%程度上がっている。対前年ではなく、対計画で 117%になっている。

組合) 労働者の生活が物価高に追い付いていないのではないかとという提案で、私たちの生活を光熱費などが圧迫しているということ認識してほしい。

会社) そうですね。

組合) 収入については、計画通り進んで 80 億円、社員一人当たりになると 1,100 万円くらい売り上げている。対コロナ前、通常だったといえる頃と、社員一人の稼ぎが高まっている。それだけ労働実感は上がっている。車に投資するのは、お客様への還元、では社員にはどのように還元しているのか。

会社) 貴側はいい顔をしないかもしれないが、すでに提案している部分もある。去年は赤字下であっても喫緊だと 55 歳減額改善はやっている。足りないということかもしれないが、その還元は意識してやっているという考えである。

組合) ベースアップの部分は、生活実感の上昇。一人一人にかかってくる。消費者物価指数 3.1%上昇、これが 5,300 円ちょっとになる。満額回答していただければそれを上回る。

会社) 満額回答かどうか、今は申し上げられないが、経営状況や社員への還元について考えて次回回答を予定している。

J R バス 関東で働く仲間を一つに!